

# 船舶事故調査報告書

平成25年2月7日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 庄 司 邦 昭

委員 根 本 美 奈

事故種類	浸水
発生日時	平成24年6月24日 16時25分ごろ
発生場所	京浜港横浜第5区金沢木材ふ頭岸壁 神奈川県横浜市所在の横浜金沢木材ふとう東防波堤灯台から真方位 220°770m付近 (概位 北緯35°22.4' 東経139°39.1')
事故調査の経過	平成24年6月25日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	貨物船 HONGSHENG（ベリーズ国籍）、1,983トン 9340518（IMO番号）、HONG SHENG SHIPPING CO., LIMITED（中華人民共和国香港特別行政区） 74.29m×13.60m×7.00m、鋼 ディーゼル機関、1,080kW、2005年8月
乗組員等に関する情報	機関長（中華人民共和国籍） 男性 39歳 機関長免状（中華人民共和国発給） 交付年月日 2010年12月23日 (2015年12月23日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	機関室水没、機関室内機器濡損
事故の経過	本船は、船長及び機関長ほか12人が乗り組み、積荷の目的で平成24年6月22日京浜港横浜第5区金沢木材ふ頭の岸壁に着岸した。 機関長は、6月24日積荷中、機関部乗組員1人と共に低位海水取入用こし器の掃除を行うこととし、低位海水取入部の船底弁及びこし器出口弁を閉鎖した上でこし器の蓋を止めているボルトを緩めて取り外したところ、16時25分ごろ大量の海水がこし器から機関室へ入ってきた。 機関長は、こし器の蓋を閉めて浸水を止めようとしたが止めることができず、船長に報告した。 船長は、海上保安庁や船舶所有者などに連絡した。 本船は、船舶所有者が依頼した修理会社により、海水取入口に蓋を溶接することによって浸水を止め、8月1日タグボートにえい航され

	て中華人民共和国に向かった。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穩
その他の事項	<p>本船の機関室は、下段及び上段の2段からなり、下段の中央に主機が、その前方の右舷側に高位海水取入口が、左舷側に低位海水取入口がそれぞれ配置されていた。</p> <p>機関室機器の冷却海水は、低位海水取入口又は高位海水取入口から取り入れられ、共通の冷却海水主管に入って海水ポンプで加圧されたのち、分岐して主機、発電補機、空調機器などを冷却して船外に排出されるようになっていた。</p> <p>低位海水取入部又は高位海水取入部から取り入れられた海水は、それぞれ取入口に取り付けられた船底弁、こし器及びこし器出口弁を通過して冷却海水主管に入るようになっていた。</p> <p>低位海水取入用こし器は、直径約48cmであり、蓋が6本のボルト及びナットで取り付けられていた。</p> <p>本船は、通常、水深が深い海域では低位海水取入口を使用し、水道や港内などの水深が浅い海域では高位海水取入口を使用していた。</p> <p>本船は、本事故当時、高位海水取入口が使用されており、機関長が低位海水取入用こし器掃除作業の開始前に低位海水取入部の船底弁及びこし器出口弁を閉弁した。</p> <p>本船は、以前から低位海水取入部の船底弁及びこし器出口弁が完全に密閉できず、機関長はこのことを聞いていた。</p> <p>機関長は、低位海水取入用こし器の掃除について、本船では乗船して初めての作業であった。</p> <p>本船は、機関室上段の床から約1m88cmの高さまで浸水した。</p>
<b>分析</b> 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし <p>本船は、京浜港横浜第5区金沢木材ふ頭岸壁で積荷中、低位海水取入部の船底弁及びこし器出口弁が完全に密閉できない状況でこし器の蓋が開けられたことから、こし器から海水が機関室に入ったものと考えられる。</p> <p>低位海水取入部の船底弁及びこし器出口弁は、以前から完全に密閉できない状態にあり、機関長は、そのことを聞いていたが、こし器から大量に浸水するとは思っていなかったものと考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、本船が、京浜港横浜第5区金沢木材ふ頭岸壁で積荷中、低位海水取入部の船底弁及びこし器出口弁が完全に密閉できない状況でこし器の蓋が開けられたため、こし器から海水が機関室に入ったことにより発生したものと考えられる。</p>

<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 海水配管中のこし器の蓋を取り外す際は、ボルト及びナットを完全に取り外さずに緩めて少しずつ漏えい状況を見ながら行うこと。</li><li>・ 入渠した際は、船底弁及び海水こし器出口弁の整備を行うこと。</li></ul>
-----------	---